

平成29年度

事業報告書

自 平成29年 4月 1日

至 平成30年 3月31日

社会福祉法人信達福祉会 法人本部
特別養護老人ホームあつかし荘
総合老人福祉施設梁川ホーム
特別養護老人ホーム・デイサービス川俣ホーム

事業報告書 目次

I 法人本部事業報告	1
概 要.....	1
1 評議員会と理事会の開催状況.....	2
2 本部事業.....	3
II 各施設事業報告	11
1 あつかし荘.....	11
(1) あつかし荘全事業	
(2) 特別養護老人ホームあつかし荘・あつかし荘 短期入所生活介護（ショートステイ）	
2 梁川ホーム.....	12
(1) 梁川ホーム全事業	
(2) 特別養護老人ホーム梁川ホーム	
(3) 梁川ホーム短期入所生活介護（ショートステイ）	
(4) ケアハウス広瀬	
(5) 梁川ホーム通所介護（デイサービスセンター）	
(6) 梁川ホーム指定居宅介護支援事業所	
(7) 伊達市梁川地域包括支援センター	
3 川俣ホーム.....	16
(1) 川俣ホーム全事業	
(2) 特別養護老人ホーム川俣ホーム・川俣ホーム 短期入所生活介護（ショートステイ）	
(3) 川俣ホーム通所介護（デイサービスセンター）	
III 各施設利用状況等	18
添付資料	20
事業報告の附属明細書.....	20
各施設月別入所・利用状況	

I 法人本部事業報告

平成29年度法人本部では、社会福祉法改正に伴い、役員等の権限・義務・責任の明確化、評議員会により理事等をけん制・監督する仕組みの導入ほか、社会福祉法人が高い公益性・非営利性を担保するため、法人が自律的に適正な運営を確保するためのガバナンスの強化を図ってきた。

概 要

- あつかし荘の増築工事は予定通りに進捗し、平成30年10月に開所を迎える。
- 地域における公益的な取組として、利用者負担軽減や災害時の福祉避難所の設置、介護教室や認知症カフェなどの取り組みを行った。
- 法人本部機能の強化と管理職の育成の一環として、幹部職員が法人全体の事業運営について経営的視点からの理解を深めると同時に、課題解決に向けて主体的に取り組んだ。
- 計算書類及び現況報告書、事業報告書や監査報告を公表し、事業運営の透明性の向上に努めた。
- 役員会は、理事会6回、評議員会4回を開催し、重要事項を審議、議決した。また、監事会では業務及び財産の状況を調査し、職員の補充、避難想定などについての指摘があった。
- 苦情等受付、身体拘束、介護事故等について苦情解決委員会で報告し、第三者委員を交え予防と再発防止策を検討した。
- 就職説明会への参加及び職場見学会の実施により、新卒介護職員3名、新卒事務職員1名、臨時介護職員2名等を採用した。
- キャリアパス要件に基づく職位別の研修、集合研修を進めるとともに外部研修にも積極的に派遣した。また、サービス評価事業では、サービス提供に関する相互評価を行いサービス向上につなげたほか、若手職員の研さんの機会とした。
- 労務管理の一環として、職員が様々な制度を活かして仕事に専念できる環境づくりに取り組み、結果的に時間外労働の削減と有給休暇取得促進につながった。あわせて人事考課における上司との面接により職員間の相互理解が深まった。

1 評議員会と理事会の開催状況

評議員会（4回）

回	日 程	出席評議員	欠席評議員	出席理事	出席監事	議 案
1	平成 29 年 6 月 8 日 【定時評議員会】	8	3	2	2	役員等の報酬等に関する規程の一部改正、理事・監事の報酬等について、平成 28 年度事業報告、平成 28 年度決算報告、理事・監事の選任 等
2	7 月 28 日	7	4	2	-	特別養護老人ホームあつかし荘増築にかかる福祉医療機構からの借入、契約の締結 等
3	12 月 11 日	9	2	2	-	定款の一部改正、補正予算 等
4	平成 30 年 3 月 16 日	10	1	2	-	定款の一部改正、給与規程の一部改正、補正予算、平成 30 年度事業計画、平成 30 年度当初予算 等

※場所はいずれも梁川ホームケアハウス広瀬

理事会（6回）

回	日 程	出席理事	出席監事	議 案
1	平成 29 年 5 月 24 日	8	2	定款細則の一部改正、役員等の報酬等に関する規程の一部改正、理事・監事の報酬等について、事務決裁規程の一部改正、経理規程の一部改正、平成 28 年度事業報告、平成 28 年度決算報告、理事・監事の選任 等
2	6 月 12 日	8	2	理事長の選任、常務理事の選定、顧問の委嘱 等
3	7 月 20 日	8	2	特別養護老人ホームあつかし荘増築にかかる福祉医療機構からの借入、契約の締結、評議員会の招集 等
4	9 月 21 日	8	2	育児休業、子の看護休暇、育児のための時間外労働及び深夜業の制限並びに育児短時間勤務に関する規程の一部改正、契約の締結 等
5	12 月 1 日	8	2	定款の一部改正、補正予算、契約の締結、評議員会の招集 等
6	平成 30 年 3 月 8 日	8	2	定款の一部改正、臨時雇用職員管理規程の一部改正、給与規程の一部改正、職員に対する被服の支給等に関する規程の一部改正、変更契約の締結、補正予算、平成 30 年度事業計画、平成 30 年度当初予算、評議員会の招集 等

※場所は、梁川ホーム家族介護者教育室。4はロイヤルホテルほていや

2 本部事業

(1) あつかし荘施設整備事業

特別養護老人ホームあつかし荘増築工事については、平成29年7月3日、条件付一般競争入札を公告し、7月20日、2社による入札の結果、福島市の亀谷建設株式会社が落札し、同日、理事会を開催、契約議案及び福祉医療機構からの借入議案を議決した。8月21日、現地で理事・監事、評議員の代表はじめ関係者が出席し安全祈願祭を実施した。

工事の施工に万全を期すため、月1回、法人監督員及び工事施工監理者、設計業者並びに施工業者による工程会議を行い、その都度設計書による詳細確認を実施し、工事の進行状況及び施工状況を確認した。

また、9月から月1回、本部とあつかし荘職員による開所準備委員会を開き、あつかし荘がこれからめざすもの、増築工事のスケジュール及び介護サービス提供内容などを職員間で共有し、開所時における体制づくりに努めた。

3月31日時点の工事進捗率は98%であり、当初計画通りに作業が進捗した。

(2) 地域における公益的な取組の推進

社会福祉法等の改正により、「社会福祉事業又は公益的事業を行うにあたり、日常生活又は社会生活上支援を要する者に対する無料又は低額の料金で福祉サービスを提供する」ことが社会福祉法人の責務と規定された。社会環境の変化に伴い、福祉ニーズが多様化・複雑化し、既存の制度では十分に対応できない方々に対する支援の必要性が高まっており、様々な事業主体が各々の創意工夫によって対応していくことが求められ、中でも社会福祉法人は他の事業主体では対応困難な福祉ニーズに対応していくことが必要とされている。

信達福祉会では、これまで利用者負担軽減や災害時の福祉避難所、地域の夏祭りの実施(梁川ホームは地元町内会の夏祭りの位置づけ)等を行ってきた。また、梁川地域包括支援センターでは、地域の方々も参加できる認知症カフェと高齢者を対象とした出前講座を実施した。また、3施設ともに認知症サポーター養成講座、地域住民・家族等のための認知症介護教室を開き、さらには、梁川ホーム、川俣ホームでは、施設以外で行われる講座へ職員を講師として派遣し、地域における認知症介護への関心の高まりに対する活動を積極的に取り組んできた。

川俣ホームは川俣町と平成19年9月、梁川ホームは伊達市と平成25年12月に「災害発生時における福祉避難所の設置」の協定を結び、福祉施設に入所していない方で、避難所での生活において特別な配慮を必要とする方について、非常災害時に施設として受け入れるとした協定を締結しているが、平成29年10月22日の台風21号被災の際には、川俣ホーム、梁川ホームともに福祉避難所の設置要請があり、梁川ホームでは自主避難者1名を受け入れた。

(3) 内部管理体制の構築

一定の事業規模（収益30億円）を超える法人は、法人のガバナンス（組織や社会に関与するメンバーが主体的に関与を行う意思決定・合意形成のシステム）を確保するため及び社会福祉法人の業務の適正を確保するために必要な体制の整備（内部管理体制の整備）を行うこととされているが、信達福祉会では将来の設置義務基準の引き下げに備え、法人本部機能の強化ならびに管理職の育成に取り組んだ。

また、9月21日理事会終了後には、理事・監事、幹部職員を対象に、顧問である千葉弁護士を講師に「社会福祉法人における内部管理体制について」をテーマに役員研修会を行い、今後、内部管理体制の整備に関わる基本方針を制定し、当該方針に基づく規程の策定等を行うこととした。理事8名、監事2名、幹部職員8名が出席した。

この内部管理体制を構築するために、法人経営会議において改めて法人及び施設管理職の関わる組織と三つの役割について以下のように整理し、幹部職員に明示した。

- ① 施設長等及び課長職は、自施設のみならず法人全体の事業運営について経営的視点からの理解を深め、それぞれの立場で課題解決に向けて取り組むことにより、施設及び法人の活性化を図る。
- ② また、その取組を理事会に報告するとともに、重要な案件については、理事・監事の意見を積極的に聴取し、理事会において議決、承認された案件を評議員に諮る。
- ③ 特に法人本部においては、法律・定款・規程等の適正な運用及び各施設との密接な報告・連絡・相談により、法人全体の業務執行が円滑に進むよう努める。

▼内部管理体制の整備に関する研修派遣状況

	日程	主催	名称	出席者
1	平成29年 6月20日	介護保険法改正解説研修	公益財団法人介護労働安定センター	事務局次長
2	8月1日	管理者養成セミナー（経営計画講座）	公益財団法人福島県産業振興センターふくしま企業塾	事務局次長
3	9月4日	管理者養成セミナー（組織活性化講座）	公益財団法人福島県産業振興センターふくしま企業塾	梁川ホーム施設介護課長、川俣ホーム施設介護課長
4	11月24日	会計監査人による外部監査の導入に向けての研修	日本公認会計士協会東北会	事務局次長

(4) 情報の公表

社会福祉法の改正により、備置きや閲覧の対象となる書類及び閲覧対象者が拡充され、計算書類や現況報告書等の公表が法令上位置づけられた。信達福祉会では、定款、事業報告書、財産目録、貸借対照表、収支計算書、監査報告書、役員名簿、役員報酬、現況報告書を備置きし、同じくインターネットホームページにおいて公表した。ホームページでは苦情受付一覧等も公表し、事業運営の透明性の向上に努めた。

11月7日と11月28日の2日間、福島県社会福祉協議会主催による福祉サービス第三者評価研修会が開催され、法人本部事務局次長及び各施設介護課長が出席し、福祉サービスの質の向上のための措置等と社会福祉法に規定された「福祉サービス第三者評価」について理解を深めた。今後、法人独自に取り組んでいるサービス評価事業の精度を高め、職員自らが課題を整理し、法人の理念達成のために自己評価等の体制づくりをすすめていくこととした。

他に、法人ホームページを逐次更新し、法人及び各施設の情報並びに求人情報等を公表した。

(5) 理事会・評議員会

社会福祉法の改正により、これまで諮問機関としての位置づけだった評議員会は、理事等の執行機関をけん制監督する役割が与えられ、役員の選任・解任や定款変更等法人の基本的事項について議決することとなった。その評議員は外部委員が参加する機関である評議員選任・解任委員会によって平成29年2月16日に選任され、4月1日からその選任の効力が生じた。

毎会計年度終了後一定の時期に招集する定時評議員会を平成29年6月8日に開催し、新たな理事、監事が選任された。

また、理事会はすべての業務執行の決定や理事の職務執行の監督を行うこととなったが、新たな理事による理事会が6月12日に開かれ、岡崎康之理事を理事長に、佐藤正紀理事を常務理事（業務執行理事）に選定した。また、千葉和彦弁護士、遠藤和男公認会計士を顧問に委嘱した。

評議員会は4回、理事会は6回開催した。（1 評議員会と理事会の開催状況参照）

▼県社協主催（県委託）役員等研修参加状況

研修会名	日程	出席者（敬称略）
評議員研修会	平成29年8月1日	吉田正幸、三木繁子、今村悦子、後藤由美子
理事研修会	平成29年9月4日	菅野信朗、朝倉より子
監事研修会	平成29年11月24日	佐藤健治郎

(6) 監事会

平成29年5月16日、監事会を実施し、平成28年度の理事の職務の執行について、重要な決裁書類等の閲覧を通じ、業務及び財産の状況を調査・検討の結果、事業報告、計算関係書類及び財産目録は適正であると認められた。なお、競

合施設の新設などがあるため利用者の確保に努めること、職員補充について努力すること、また、有事の際の避難についての想定をより具体的に行うことなどが指摘された。

(7) 法人経営会議

法人経営会議は、理事長、常務理事、施設長、事務局長、事務局次長が出席し、毎月1回、各施設会場持ち回りで開催し、各施設の利用率及び予算執行の状況並びに職員の労働環境条件等について協議するとともに事業経営等の重要事項を協議し課題解決を図った。

(8) 苦情解決委員会

平成29年7月11日、苦情解決委員会を開催した。委員には、各施設2名ずつ地元の人権擁護委員の方を委嘱し(任期2年)、委員5名、職員22名が出席した。また、千葉和彦弁護士にも出席いただき適宜助言を受けた。

会議では、平成28年度の各施設における苦情解決委員会の開催状況、苦情等対応について、身体拘束について、リスクマネジメント活動及び事故発生状況等について、各施設担当者からその詳細を説明報告した。

▼苦情対応、身体拘束、事故発生状況

年度	苦情対応件数	身体拘束件数	事故発生件数
平成28年度	9件	6件	263件
平成29年度	7件	4件	206件
増減	-2件	-2件	-58件

また、平成23年度から6年間における事故件数の変化についての考察並びに平成28年度利用者・家族満足度調査の概要を報告した。事故件数は増えており、中でも皮下出血・表皮剥離などの事故が増加した。また、満足度調査では、すべての事業所で概ね満足の回答を得られたものの、利用者の個別対応に対する要望、家族とのコミュニケーションなどが課題となった。

(9) 法人経営基盤の安定化

平成29年4月の介護報酬改定に対応し、各加算の取得に取り組んだ。課長会議では、稼働率の向上のために、「退所から入所までの期間短縮(5日以内)」「老健入所中や他事業所との調整」「待機者の男女バランスの考慮」「入院者の状況把握」などを行った。あわせて、加算等の取得が経営の安定だけでなく、職員のやりがいや、運営理念の実現につながっていることを職員全体で共有できるよう、会議の場などを利用して理解を深める取り組みを行った。

(10) 利用者の人権・権利擁護、虐待防止

3施設とも定期的に身体拘束廃止委員会を開いたほか、新任職員研修、職員倫理に関する研修、身体拘束廃止と虐待防止研修を行うとともに、県社協(県委託)が主催する高齢者施設における虐待防止研修や身体拘束廃止推進セミナー等に職員を派遣し、職員の意識向上に努めた。

(11) リスクマネジメント

平成29年度の事故発生状況は、前年度に比べて減少しているが、入浴前後に発見する表皮剥離などが依然多く、引き続き要因分析し、対策をしっかりと行うこととした。

また、各施設とも10月から冬期間の感染症予防のための取り組みを開始し、平成29年中の発症はなかったが、平成30年1月に梁川ホーム及び川俣ホームのデイサービスでインフルエンザの罹患者が現れ、梁川デイサービスセンターは4日間、川俣デイサービスセンターは3日間休業となった。なお、特養についてはいずれの施設でも蔓延を防ぐことができた。

全国経営者協議会主催の初級リスクマネジャー養成講座に梁川の係長を、上級リスクマネジャー養成講座に法人本部事務局次長を派遣し、リスクマネジメントの理解と更なる活動推進を図った。

(12) サービス評価事業

9月～11月にかけて法人独自のサービス評価事業を実施した。サービス提供プロセス評価は、評価委員と副主任以上の役職者による自己評価及び各施設委員による実地評価を行い、組織マネジメント評価については係長以上の役職者による自己評価及び各課長による委員評価を行い、相互評価のまとめを受け、各施設における改善すべき内容を平成30年度の事業計画に盛り込んだ。

(13) 職員の人材確保と育成

① 職員の人材確保

安定した施設運営をしていくためには人材の確保が重要で、これまでも計画を立てて採用活動を進めてきた。しかし、介護人材の絶対数の不足により、計画に見合った応募がない状況が続いてきた。今年度は、これまでのハローワーク等への求人申込、ホームページや施設広報紙への掲載、求人広告の折込、県社協や労働局、各学校の合同就職説明会への出席のほか、新たに法人独自の職場見学会及び就職説明会を実施した。

職場見学会は、平成29年7月22日(土)、7月27日(木)の2日間、梁川ホームにおいて開催した。法人・施設の概要を課長等から説明したのち、実際に介護現場を案内し、また施設の給食を提供して施設利用の実際にふれていただいた。初めての実施であったが、生徒を送迎したこともあり、2日間で20名が参加した。内訳は、高校1年生が2名、2年生が5名、3年生が10名、専門学校2年生が2名、社会人1名であった。地域的には伊達市、伊達郡のほか福島市、本宮市からの参加もあった。このうち3名(高校生2名、専門学校生1名)が応募し、採用につながった。

また、就職説明会は、平成30年3月4日(日)、伊達市梁川中央交流館で行い、9名が来場され、2名の採用につながった。

平成30年10月開所を迎えるあつかし荘では、平成29年10月15

日以降3月まで8日間、あつかし荘独自の職場見学会を開催し、職員の確保に努めた。

求人については、高校の求人が解禁となる7月1日以降速やかに各学校に対して求人票を持参し求人を依頼、見学会終了後にはその報告書を持参してお礼のあいさつを行うなど各高校、専門学校との連携を図った。

各就職説明会の参加については次表の通りだが、それぞれの来場者に個別に連絡をとり、希望者には施設を案内するなどして、就職に結びつくように取り組んだ。ほか、職員の紹介により職員確保につながったケースもあった。

▼各就職説明会等実績

	日程	主催	名称	ブース 来訪者	採用者
1	平成29年 7月22日 27日	信達福祉会	職場見学会	20	3
2	7月29日	福島県社会 福祉協議会	第1回福祉の職場合同就職説明会	2	0
3	8月23日	福島労働局	合同企業説明会	1	0
4	8月25日	郡山健康科学専門学校	学校就職説明会	3	0
5	10月3日	福島労働局	若年者合同企業説明会	1	0
6	11月9日	福島公共職業安定所	「介護就職デイ」福祉関係合同面接会	3	0
7	11月15日	伊達市	伊達市女性のための就職面接会	2	0
8	11月22日	梁川高校	企業説明会(2年生対象)	10	0
9	12月16日	福島労働局	ふくしま大卒等合同就職面接会	0	0
10	平成30年 2月4日	福島県社会 福祉協議会	第2回福祉の職場合同就職説明会	5	0
11	2月21日	川俣高校	企業説明会(1,2年生対象)	24	0
12	3月4日	信達福祉会	就職説明会	9	2
13	3月8日	福島労働局	ふくしま大卒等就職ガイダンス	2	0

② 人材育成

今年度は、職員の資質の向上を目的とした基本研修として、全職員が参加する法人職員研修を4回実施した。

▼法人職員研修

	日程	対象	内容	参加人数
1	平成29年 7月13日	入職後5年程度まで	接遇マナー	39名
2	8月16日	副主任まで	人材育成に関する研修	42名
3	9月16日	主任以上	リスク管理	32名
4	11月16日	副主任以上	介護施設におけるコンプライアンス	50名

また、新入職員が、仕事と職場にスムーズになじめるよう、技術的な指

導とメンタル面のサポートを目的に、若手職員がマンツーマンで新入職員を指導するプリセプター制度を採用し、一年間かけてゆっくりと新入職員の成長を支援し、不安なく仕事ができるようにした。また、年間を通して、採用2、3年の事務員を対象に、社会人としての心得並びに法人規程の勉強会を行い、施設における事務職員の役割の重要性について理解を深めた。

▼雇用管理、職業能力開発推進の外部研修参加実績

	日程	主催	内容	参加者
1	平成 29 年 9 月 25 日	厚生労働省	会社を強くする雇用ルールと 助成金セミナー	事務局次長
2	10 月 4 日	厚生労働省	労働契約等解説セミナー	事務局次長
3	10 月 19 日 ～20 日	福島県職業能力 開発協会	職業能力開発推進者講習会	事務局次長
4	11 月～12 月	全社協	社会福祉施設職員会計実務講 座	本部事務員 2 名、梁川ホー ム事務員 1 名

(1 4) 人事考課制度の確立

人事考課制度では、職員の能力開発と組織の活性化を目的に取り組みを進めてきた。職務に関する内容等を記述し、異動に関する考えを問う職務分析書、1年間の職務に関する目標及び部下育成に関する目標を掲げる目標管理考課、職務遂行において持っている能力等を評価する人事評価を並行して行い、これらを上司との面接を通じて相互理解を深め、あわせて自主的な学習支援と人材の育成に努めた。平成26年度から進めてきた考課者も習熟を深め、制度としての精度も高まってきた。

(1 5) 労働安全衛生管理体制の確立並びに腰痛予防対策の推進

10月中旬、ストレスチェックを実施し、結果の分析等を通じて高ストレス者への支援を行い、トラブルの未然防止に努め、職場環境の改善を行った。

また、平成29年度福島県社会福祉法人経営労務管理改善支援事業を利用し、経営労務管理の状況について、社会保険労務士による確認・助言等を受け、経営労務管理の改善を図った。法人本部事務局次長と各施設課長副課長計6名によるプロジェクトを立ち上げ、職員が様々な制度を活かして仕事に専念できる環境づくり、人材の確保と優秀な人材を育成することのできる魅力ある職場づくりに取り組んだ。具体的には、個人ごとの業務内容の見える化と業務内容の共有化を進めることにより、業務の効率化と分担が進み、結果的に働きがいのある職場づくりにつながった。あわせて、時間外勤務の削減と有給休暇取得促進が図られた。個人面談や会議進行の効率化などその都度声掛けを行ったことが職員の意識を変えることにつながり成果として現れた。

(1 6) 事業の進行管理

介護保険制度施行以来、これまで数度にわたり介護報酬の改定が行われてき

た。予防・地域密着型、地域包括ケアなどの概念が提唱され、高額所得者の自己負担2割、特養入所対象者の要介護度の変更（要介護3以上）などが行われてきた。少子高齢化による社会保障費の抑制のねらいの中、施設から在宅への移行に加え、平成30年度改正では予防サービスの市町村地域支援事業の対象者のさらなる拡大、診療報酬と介護報酬の同時改定がなされ、2025年に団塊の世代が後期高齢者となり、国民の5人に1人が75歳以上という時代を迎えるにあたり、報酬が上がらない中、いかにして利用者を確保して、質の高い介護サービスを提供し、安定した経営を継続できるかが問われることとなった。

信達福祉会では、今後の報酬改定の動きを見据え、加算の取得など事業内容について検討し、経営安定化に向けた取り組みを行うとともに、平成30年度介護報酬の改定を見据えた利益率、費用比率等の財務分析を行った。

また、施設においても、毎月開催している事業方針検討会等で、信達福祉会及び各施設の事業方針について、職員が認識を共有し、理解を深める取り組みを行い、施設事業計画の実施状況については、定期的に評価・見直しを行い、施設事業計画の進行管理を行った。

給食業務委託契約については、これまで同一業者との契約を行ってきたが、平成30年度以降については、より質の高いサービス提供を目的に、複数業者による指名式プロポーザル方式によって選定することとし、2回の審査委員会を経て10月26日、2社によるプレゼンテーションを実施、同日第3回審査委員会を実施して委託業者を選定した。

あわせて、経費節減の一環として新電力移行時の効果と業者選定の比較検討を行い、あつかし荘と梁川ホームは新電力会社と契約を締結した。また、蛍光灯のLED化の検討も行い、更に水道使用量の低減など経費節減に向けて各施設とも積極的に取り組んでいる。

（17）財務・会計

経営シミュレーションを定期的に見直し、中長期的な視点からの施設設備の改修、更新計画を立て経営改善を図った。また、紙おむつ購入、寝具リース等利用者に提供する共通物品の法人一括契約を行い経費の節減に努めた。2月27日、担当者を対象に契約事務手続き等に関する学習会を行った。

（18）特定個人情報の適正な取扱い

特定個人情報に関する基本方針及び特定個人情報取扱規程に基づき、職員等に係る個人番号、利用契約により委任された利用者等に係る個人番号について、漏えい、不正利用が起きないように取扱担当者を限定して厳重な管理を行った。

Ⅱ 各施設事業報告

1 あつかし荘

(1) あつかし荘全事業

- ① 特別養護老人ホームあつかし荘増築に係る施設整備計画に基づき、計画通りに施設整備を進めることができた。また施設内開所準備委員会を立上げ、施設備品の選定やショートを受け入れについての準備を行った。
- ② 利用者・ご家族満足度調査を実施し、利用者・家族のニーズの把握を行い、結果を家族懇談会で報告するとともに、家族の要望に善処することができた。
- ③ 身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束廃止に向けて検討を重ね、身体拘束廃止に努めることができた。外部研修への参加や全体研修を通して、職員の身体拘束廃止、虐待防止への意識向上を図ることができた。
- ④ 夏祭りの開催、サマーショートボランティアなどを積極的に受け入れ、地域社会への貢献に努めた。
- ⑤ 介護プリセプター研修制度に基づき、新人職員の教育に取り組んだ。また、キャリアパスに沿った職員の研修計画を立て、職員の知識・技術の向上に努めることができた。
- ⑥ 桑折町の消防団等の連携による合同夜間総合訓練の外、土砂災害（河川の氾濫）を想定した訓練を計画、実施し、安全確保に努めることができた。
- ⑦ リスクマネジメント委員会を中心に、「事故」「ヒヤリはっと」状況の報告・検討を通し、多職種連携にて事故防止に努めることができた。
- ⑧ 感染症委員会を中心として標準予防策を徹底し、感染症予防に努めることができた。
- ⑨ 健康診断・ストレスチェックを実施し、職員の心身の健康状態を把握するとともに、時間外労働や有給休暇の取得状況の把握・分析・改善策を実施し、業務の効率化をすすめ、働きやすい職場づくりに努めることができた。

(2) 特別養護老人ホームあつかし荘・あつかし荘短期入所生活介護（ショートステイ）

- ① 年間計画のとおり、行事やレクリエーションを実施し、外出の楽しみや食の楽しみが持てるよう支援することができた。
- ② 多職種連携により自然排便を促すため、オリゴ糖摂取を導入し、個別排泄ケアの取り組みを開始することができた。
- ③ 嘱託医・協力医療機関との連携を密に行い、リハビリ指導も含め、利用者の心身の機能低下予防と異常の早期発見、早期治療に努めることができた。

- ④ 家族の希望や意向を拝聴しながら家族の気持ちに沿って大切な終末の時間を過ごしていただくよう支援し、また看取りケアの振り返りを行い、職員間での思いを共有することができた。
- ⑤ 多職種で利用者の個々の状態観察を行い、食事摂取状況を共有し、栄養改善の取組みを進めることができた。
- ⑥ 利用者との会話等により情報収集を行い、利用者の満足のできる献立作成に努めることができた。
- ⑦ 栄養士を中心として、歯科衛生士からの利用者の口腔内の評価を多職種で共有し、口腔衛生管理を行い、栄養改善及び肺炎予防のための口腔ケアを実践することができた。
- ⑧ 入所申込者及び待機者の状態確認を行い、スムーズに入所していただくよう努めた。
- ⑨ 施設サービス計画を確実に実行し、家族の面会時に利用者の近況を報告するとともに、家族の意向を確認することができた。
- ⑩ 施設会計における収支状況を的確に把握し、意識的に経費削減や冗費縮減に努め、経営シミュレーションに基づく安定した経営と更なる基盤強化を図ることができた。
- ⑪ 介護報酬改定の情報収集を積極的に行い、特定個人情報の安全管理や安全衛生管理を含む関係諸法令の遵守、徹底に努め、利用者が安全かつ快適に利用できる施設づくりに努めた。
- ⑫ 利用者に安全かつ快適な施設サービスを提供するために、施設内設備機器等の維持管理に努めた。

2 梁川ホーム

(1) 梁川ホーム全事業

- ① 開所20年を記念した式典において地域およびボランティアに対し感謝の意を表するとともに、夏祭りなどの行事でも記念イベントを盛り込み、家族・地域の方々に楽しんで頂ける企画開催を行った。
- ② 利用者の安全確保のため防犯カメラを設置するなど、不審者の侵入および万が一の離園防止を図る防犯対策を強化した。
- ③ 最適な温度管理が可能な温冷配膳車をケアハウス広瀬に導入した結果、利用者の食に対する意欲ならびに食事サービス向上につながった。
- ④ 豪雨災害時には自主避難1名の受入れを実施するなど福祉避難所としての役割意識を高め、さらに非常時の内部体制強化を進めるため定期的に防災訓練を開催し、年間計画の炊き出し訓練では新開町内会婦人部の協力を頂いた。

- ⑤ 学生の職場体験、介護現場実習等の受け入れを積極的に行なうとともに、認知症サポーター養成講座およびサロン等への職員派遣、介護家族への相談対応など地域社会への貢献に努めた。
- ⑥ 職員の資質向上、キャリアアップ支援のため、外部研修への積極的派遣に加え、介護技術研修、看取り介護研修などケア向上を図る職場内研修を開催した。
- ⑦ 事業の中・長期的な経営シミュレーション、予算執行状況の把握を通して、管理・監督職をはじめとした職員の経営感覚・経費節減意識の向上に努めた。

(2) 特別養護老人ホーム梁川ホーム

- ① 利用者との関わりを通じて要望を伺い、絵本の朗読会、手指のマッサージや衛生介助など利用者と密に関わる時間を確保するとともに、施設内行事のほか外出やドライブなど家族参加も促し自立支援に向けて利用者に良い刺激を提供することができた。
- ② 利用者の心身状態変化に対する早期対応、感染症予防の基本対策を徹底し健康管理・維持に努めた。また協力医療機関等との連携、職員間の情報共有のもと利用者の状態変化に対する家族への説明を丁寧に分かりやすく行ない、家族の安心・心身のケアに努めた。
- ③ 多職種が連携し自然な排便、医療的処置の減少など苦痛緩和を進め、利用者一人ひとりに適した排泄用品の選定、介助法を実践することで利用者の自立支援につなげることができた。
- ④ 新規導入したリハビリマシーンを活用した運動トレーニングにより、利用者の身体機能向上を図ることができた。また、リハビリ体操など利用者が日常のなかの楽しみとし、意欲的に四肢の筋力維持訓練に取り組むことができた。
- ⑤ 元気に楽しく料理クラブで食事レクリエーションを行ない利用者の残存機能の強化、「その人らしさ」をチームで共有し介護力向上につなげることができた。
- ⑥ 施設で安心して最期を迎えられる看取り介護のため、家族への連絡・説明をこまやかに行ない、状態に応じたプラン作成および心に寄り添ったケアの実践に努めた。

(3) 梁川ホーム短期入所生活介護（ショートステイ）

- ① 利用希望に対して迅速に面接から施設の受入れ準備を進め、月平均5名の新規利用を受け入れることができた。結果、前年度に比べて延べ750名増の利用があり、重大事故もなくより多くの方の在宅生活の継続支援をすることができた。また、サービス計画書も適切に作成し計画に沿ったサービス提供を行うことができた。

② 感染症の蔓延による営業停止等もなく、安定的に安全に利用していただいた。

③ 急な利用希望や長期利用の希望、送迎時間の変更に際して各部署協力し、柔軟に対応した結果、稼働率の向上につながった。また、家族の疲労の状況をケアマネージャーに伝え、家族支援の為のショートステイ利用に至るケースもあり、多様なニーズにこたえていくことができた。

(4) ケアハウス広瀬

特定施設入居者生活介護（介護予防を含む）の指定を受けて初めての年であり、介護保険に基づくサービス提供を新体制のもとで実施することができた。

① 特定施設入居者生活介護施設として、要支援1～2の方が12名、要介護1～5の方が11名、自立の方が5名という状況の中にあつてどの利用者においても持てる力に応じた自立した生活が送れるよう、介護、看護、機能訓練、生活相談の各職種の配置を行い、各職種の連携・協働のもと夜勤を含めて適切なサービス提供をすることができた。

② 入居者一人一人の生活スタイルや心身の状態に合わせた生活相談や施設サービス計画作成、状態の低下が見られた時にはサービス内容の見直しを随時行い、その方らしい自立した生活を継続できるよう支援した。また、認知症の症状がある方にはコミュニケーションの仲立ちを行いつつ、全体には予防対策としての健康体操を実施した。

③ 申し送りを活用した日頃の状態観察・健康チェックにより服薬管理や受診の為の手配を確実にを行い早期発見早期対応に努めた。

④ 施設全体での事故予防活動、感染症予防対策をケアハウス広瀬でもマニュアルの整備をはじめとして確実に実施した。事故対策においては家族とのリスクの情報共有など速やかな対応に努めた。感染症予防のためには利用者への手洗いうがいの予防対策の実施声掛けだけでなく、面会の方にも予防のための対応協力をいただき、発症・蔓延なく過ごすことができた。

⑤ 個々のこれまでの食生活を尊重するとともに栄養面でのサポートに努めて食事による健康維持を図りながら、入居者同士での会食を楽しんでいただき団欒の時間を持っていた。また、調理行事や誕生会を通して入居者同士、または職員との親睦を図る機会を企画した。

⑥ ご自分で入浴できる入居者には時間を設定することで入居者同士マナーを守って和やかに入浴していただけた。介助が必要な方には新しく導入した特殊浴槽を用いることで安全で安定した姿勢を保ち、お湯につかるとい入浴そのものを楽しんで頂くことができた。

⑦ 入居者同士の親睦を図り、生きがい・楽しみとなるよう、外出や野菜作り、喫茶などの行事を行った。また、軽費老人ホーム輪投げ競技大会や認知症カフェへの参加なども支援し、園内外で活動していただくことができた。

た。

(5) 梁川ホーム通所介護（デイサービスセンター）

- ① 朝、昼のミーティング、毎月のデイサービス会議、申し送りノートを活用し、利用者個々の状態や家族からの申し送りについて情報を適時に共有したケアに努めた。
- ② リスクマネジメント委員会を軸とした事故対策活動を行い、毎月の事故・ヒヤリはっとについてはデイ会議で確認した。感染症対策においては職員、利用者でのインフルエンザ発症が相次ぎ、一般型で3日間、認知症対応型で4日間の営業停止をせざるを得なくなり、利用者に迷惑をおかけし収益上でも損失を生じる結果となり、次年度の感染症対策を更に徹底して行わなければならない。
- ③ 居宅介護支援事業所に月初めに空き情報を送り、見学も随時受け付けて利用者確保に努めた。
- ④ 利用者へ口腔ケアサービスを継続したことで口腔ケアに対する意識が高まり利用者へ浸透した。
- ⑤ 認知症の進行予防への効果を期待した活動として、季節の野菜を育てて収穫して調理すること、花植え、毎月の調理機能訓練や月2回の味噌汁作りを行った。
- ⑥ ボランティアには園内での敬老会など行事の際に協力していただいた。ドライブは一般型で年2回、認知症対応型で月2回程度実施し、利用者の外出機会を設け、デイサービスでの時間の過ごし方がマンネリ化しないように工夫した。
- ⑦ 地域密着型サービス運営推進会議（認知症対応型通所介護が該当）を定期（9月、3月）で行い、利用者家族、地域住民、行政も含めた委員に情報を開示し、助言をいただいて運営に取り入れた。

(6) 梁川ホーム指定居宅介護支援事業所

- ① 毎週事業所内で事例検討を行い支援の視点の共通理解を促進しただけでなく、経過も確認することで援助の視点のズレを少なくすることができた。また、終了した利用者の振り返りを行い、改善点を皆で意識化した。
- ② 在宅での看取りが増えてきていることに対応するため、医師を筆頭にした多職種によるチームケアを築き、緊急性が高く医療ニーズの高い利用者にも対応した。
- ③ 外部研修へ積極的に参加することができ、参加後は部署内会議で伝達することを行った。それにより部署全体のスキルアップにつなげることができた。
- ④ 困難ケース等について地域包括支援センターや行政と連携して共通認識を持つことができた。

(7) 伊達市梁川地域包括支援センター

- ① 介護予防が必要な高齢者ができる限り自立して在宅生活を継続できるよう、相談内容に応じて医療機関や福祉事業所、行政などと連携を図りながら介護予防ケアマネジメントを行い、2,000件を超える介護予防のケアプランを作成した。
- ② 包括的・継続的ケアマネジメントを推進するため、伊達市第6次保健福祉計画に基づく役割を遂行しながら、29年度は特に地域ケア会議の体制整備のために伊達市への協力のもと模擬会議や公開会議に出席した。
- ③ 民生児童委員との連携、出前講座の開催などにより、地域の情報収集や介護予防に対する啓発を促進することができた。認知症カフェについては包括主体から地域主体へと移行するため、居宅介護支援事業所との連携を推進した。また、認知症初期集中支援チームでの活動も継続し、情報の共有に努めた。
- ④ 権利擁護業務としては虐待の疑いのあるケースや消費被害についての情報提供を受け、伊達市へ報告を行った。また、成年後見が必要と思われる方の相談、支援を実施した。
- ⑤ 定期的に市町村の関係機関や他の地域包括支援センター等と会議・研修会を重ね、互いの連携を密にすると共に情報の共有、地域の実態把握に努めた。内部研修については部署内会議や復命書の回覧による伝達研修を行った。
- ⑥ 地域包括支援に関わる研修以外の福祉サービス関連の研修にも参加し、幅広い知識の習得に努めて資質向上を図った。

3 川俣ホーム

(1) 川俣ホーム全事業

- ① 権利擁護の活動において、毎月の委員会の開催や研修を行い、職員全体で身体拘束廃止や虐待防止の意識向上に努めた。
- ② 感染症対策として、懸念される時期には委員会を中心に地域や利用者、職員、家族の情報収集を密に行ないながら感染予防と拡大防止に努めることができた。
- ③ 地域との連携においては、行事等でのボランティア及び実習生の受入れを積極的に行い、連携を取りながら交流ができた。また、介護相談を実施、自宅を訪問し介護についての相談と技術講習を行った。
- ④ 職員の資質向上のため、プリセプター研修や、職員のキャリアパス要件に照らした外部研修への派遣、内部研修及び外部講師を招いての学習会を実施した。また、介護職員の喀痰吸引研修など実施、職員全体での知識の

向上、技術向上に努めた。

- ⑤ ワークライフバランスの充実に向け、各部署長による時間外勤務の把握と労務管理を実施した。また、ストレスチェックの実施と集計結果の周知により、働きやすい職場環境づくりと心身の健康づくりに努めた。

(2) 特別養護老人ホーム川俣ホーム・川俣ホーム短期入所生活介護（ショートステイ）

- ① 利用者の自立支援への取組みとして、介護力向上委員会を中心に排泄ケアの向上を目標におきながら活動を全職員に広め、多職種協働で知識、技術の習得に努めた。また、利用者家族との情報共有を行いながら、サービス内容の共有化を図ることができた。
- ② 看取り介護において、利用者のご家族の気持ちに寄り添うケアを目標とし、カンファレンスの開催と多職種協働によるチームケアを行うことができた。また内部研修を通して職員一人一人がその意義と目的への理解を深めることができた。
- ③ 入所検討委員会にて決定した順位に基づき、上位待機者を中心に随時連絡を取り、状態把握を行いながら円滑な入所支援ができた。
- ④ 栄養ケア・マネジメントや感染症等の知識を内部研修で全体に周知をするなどして安全な食事の提供に努めた。また、利用者の楽しみや食欲増進につなげるため嗜好の把握と献立作りを行い、ソフト食もゼリーに偏らない内容を工夫できた。
- ⑤ 設備、備品の適正な維持管理を図り、利用者の生活環境の維持改善に努めた。

(3) 川俣ホーム通所介護（デイサービスセンター）

- ① 自立支援における介護サービスとして、アクティビティ実施の際、その効果を説明することで意識的に利用者が活動することができた。また、多種のアクティビティを提供し、体の様々な部位を動かすことで生活動作の維持向上を図るよう努めた。
- ② 訪問による介護相談を行い、個別の相談や介護技術講習を実施することで在宅介護の不安や疑問を解消する機会を設けることができた。

Ⅲ 各施設利用状況等

特別養護老人ホーム

事業所名	定員 (人)	延べ利用人数(人)		ベッド稼働率(%)		利用者平均要介護度		営業日数(日)	
		29年度	28年度	29年度	28年度	29年度	28年度	29年度	28年度
あつかし荘	50	18,044	17,920	124	98.9	98.2	0.7	4.27	4.37
梁川ホーム	80	28,943	29,333	-390	99.1	99.5	-0.4	4.16	4.08
川俣ホーム	60	21,502	21,519	-17	98.2	98.3	-0.1	4.18	4.18
法人計	190	68,489	68,772	-283	98.8	99.2	-0.4	4.20	4.21

(※平成28年度梁川ホームは、措置入所受入のため4～12月の定員81人)

ショートステイ ※介護予防含む

事業所名	定員 (人)	延べ利用人数(人)		ベッド稼働率(%)		1日平均利用者数(人)		営業日数(日)	
		29年度	28年度	29年度	28年度	29年度	28年度	29年度	28年度
あつかし荘	2	767	716	51	105.1	98.1	7.0	2.1	1.9
梁川ホーム	20	6,086	5,335	751	83.4	75.9	7.5	16.7	14.6
川俣ホーム	20	6,105	5,917	188	83.6	81.1	2.5	16.7	16.2
法人計	42	12,958	11,968	990	84.5	78.1	6.4	35.5	32.7

(※平成28年度梁川ホームショートステイは、特養措置入所受入のため4～12月の定員1名減)

デイサービスセンター ※介護予防含む

事業所名	定員 (人)	延べ利用人数(人)		稼働率(%)		1日平均利用者数(人)		開所日数(日)	
		29年度	28年度	29年度	28年度	29年度	28年度	29年度	28年度
梁川ホームⅠ型	25	6,307	6,671	-364	82.4	86.4	-3.9	20.6	21.6
Ⅱ型	12	2,565	2,708	-143	70.1	73.0	-2.9	8.4	8.8
川俣ホームⅠ型	20	4,469	5,137	-668	73.0	83.1	-10.1	14.6	16.6
Ⅱ型	12	2,578	2,495	83	70.2	67.3	2.9	8.4	8.1
法人計	69	15,919	17,011	-1,092	75.4	79.8	-4.4	52.0	55.1

ケアハウス

事業所名	定員 (人)	月初日平均入居者数(人)			稼働率(%)			営業日数(日)		
		29年度	28年度	前年度比	29年度	28年度	前年度比	29年度	28年度	前年度比
ケアハウス広瀬	30	27.1	26.6	0.5	90.3	88.7	1.6	365	365	0
法人計	30	27.1	26.6	0.5	90.3	88.7	1.6			

居宅介護支援事業所

事業所名	要介護認定調査(件)			居宅サービス計画作成の相談依頼(件)			居宅サービス計画作成(件)		
	29年度	28年度	前年度比	29年度	28年度	前年度比	29年度	28年度	前年度比
梁川ホーム	222	99	123	2,231	2,264	-33	2,077	2,096	-19
法人計	222	99	123	2,231	2,264	-33	2,077	2,096	-19

地域包括支援センター

事業所名	相談延べ件数(件)			訪問件数(件)			介護予防サービス計画作成(件)			地域講座(件)		
	29年度	28年度	前年度比	29年度	28年度	前年度比	29年度	28年度	前年度比	29年度	28年度	前年度比
伊達市梁川地域包括支援センター	2,941	1,711	1,230	1,380	673	707	2,480	2,270	210	18	19	-1
法人計	2,941	1,711	1,230	1,380	673	707	2,480	2,270	210	18	19	-1

事業報告の附属明細書

平成29年度 あつかし荘市町村別・月別利用状況

特養

市町村別 月別	福島市		伊達市					桑折町	国見町	川俣町	その他	計	月内の異動	
	福島市	旧飯野町	旧伊達町	旧梁川町	旧保原町	旧霊山町	旧月舘町						入所	退所
	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
平成29年 4月	3	0	3	6	6	1	1	16	15	0	0	51	1	3
5月	3	0	3	5	6	1	1	17	14	0	0	50	2	0
6月	3	0	3	5	7	1	1	17	14	0	0	51	1	1
7月	3	0	3	4	7	1	1	17	14	0	0	50	0	0
8月	3	0	3	4	7	1	1	18	14	0	0	51	1	1
9月	2	0	3	4	7	1	1	19	14	0	0	51	1	2
10月	3	0	3	5	8	1	1	18	14	0	0	53	4	3
11月	3	0	3	5	8	1	1	17	12	0	0	50	0	0
12月	3	0	3	5	8	1	1	17	12	0	0	50	0	0
平成30年 1月	3	0	4	5	8	1	1	17	13	0	0	52	2	2
2月	3	0	4	4	7	1	1	18	13	0	0	51	1	1
3月	2	0	4	4	8	1	1	19	13	0	0	52	2	2
合 計	34	0	39	56	87	12	12	210	162	0	0	612	15	15

※月初日の入所者数

短期入所生活介護

市町村別 月別	福島市		伊達市					桑折町	国見町	川俣町	その他	合計	1日平均人数	ベッド稼働率
	福島市	旧飯野町	旧伊達町	旧梁川町	旧保原町	旧霊山町	旧月舘町					延日数		
	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(人)	(%)
平成29年 4月	0	0	0	0	7	0	0	23	39	0	0	69	2.3	115.0%
5月	0	0	0	0	0	0	0	36	26	0	0	62	2.0	100.0%
6月	0	0	0	0	0	0	0	44	39	0	0	83	2.8	138.3%
7月	0	0	0	0	0	0	0	40	32	0	0	72	2.3	116.1%
8月	0	0	0	0	0	0	0	39	23	0	0	62	2.0	100.0%
9月	0	0	0	0	0	0	0	34	26	0	0	60	2.0	100.0%
10月	0	0	0	0	0	0	0	31	31	0	0	62	2.0	100.0%
11月	0	0	0	0	0	0	0	37	23	0	0	60	2.0	100.0%
12月	0	0	0	0	0	0	0	29	33	0	0	62	2.0	100.0%
平成30年 1月	0	0	0	0	0	0	0	33	25	0	0	58	1.9	93.5%
2月	0	0	0	0	0	0	0	38	17	0	0	55	2.0	98.2%
3月	0	0	0	0	0	0	0	37	25	0	0	62	2.0	100.0%
合 計	0	0	0	0	7	0	0	421	339	0	0	767	2.1	105.1%

事業報告の附属明細書

平成29年度 梁川ホーム市町村別・月別利用状況

特養

市町村別 月別	福島市		伊達市					桑折町	国見町	川俣町	その他	計	月内の異動	
	福島市	旧飯野町	旧伊達町	旧梁川町	旧保原町	旧霊山町	旧月舘町						入所	退所
	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
平成29年 4月	1	0	2	51	11	4	3	3	5	0	0	80	0	1
5月	1	0	2	51	11	4	3	3	4	0	0	79	3	2
6月	1	0	2	52	11	4	3	3	4	0	0	80	4	4
7月	1	0	2	51	11	5	3	4	3	0	0	80	1	1
8月	1	0	2	52	11	5	3	3	3	0	0	80	1	1
9月	1	0	2	52	11	5	3	3	3	0	0	80	3	3
10月	1	0	2	52	11	5	3	3	3	0	0	80	3	3
11月	0	0	2	53	11	7	3	2	3	0	0	81	1	1
12月	0	0	2	52	11	7	3	2	3	0	0	80	0	0
平成30年 1月	0	0	2	52	11	7	3	2	3	0	0	80	0	1
2月	0	0	2	52	10	7	3	2	3	0	0	79	3	2
3月	0	0	1	52	11	8	3	2	3	0	0	80	2	3
合 計	7	0	23	622	131	68	36	32	40	0	0	959	21	22

※月初日の入所者数

短期入所生活介護

市町村別 月別	福島市		伊達市					桑折町	国見町	川俣町	その他	合計 延日数	1日平均 入所人数	ベッド稼働率
	福島市	旧飯野町	旧伊達町	旧梁川町	旧保原町	旧霊山町	旧月舘町							
	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(人)	(%)
平成29年 4月	0	0	0	422	26	8	4	0	19	0	0	479	16.0	79.8
5月	0	0	0	423	27	13	3	0	23	0	4	493	15.9	79.5
6月	0	0	0	444	31	10	3	0	27	0	2	517	17.2	86.2
7月	0	0	0	469	32	20	0	0	20	0	6	547	17.6	88.2
8月	0	0	0	455	25	18	10	0	25	0	4	537	17.3	86.6
9月	0	0	0	416	28	19	5	0	34	0	6	508	16.9	84.7
10月	0	0	0	475	28	12	0	0	24	0	4	543	17.5	87.6
11月	0	0	0	430	38	3	0	0	33	0	4	508	16.9	84.7
12月	0	0	0	419	33	18	0	0	31	0	4	505	16.3	81.5
平成30年 1月	0	0	0	417	35	16	0	0	34	0	0	502	16.2	81.0
2月	0	0	0	385	35	30	0	2	21	0	3	476	17.0	85.0
3月	0	0	0	411	11	28	0	4	15	0	2	471	15.2	76.0
合 計	0	0	0	5166	349	195	25	6	306	0	39	6086	16.7	83.4

事業報告の附属明細書

平成29年度 川俣ホーム市町村別・月別利用状況

特養

市町村別 月別	福島市		伊達市					桑折町	国見町	川俣町	その他	計	月内の異動	
	福島市	旧飯野町	旧伊達町	旧梁川町	旧保原町	旧霊山町	旧月館町						入所	退所
平成29年 4月	(人) 3	(人) 4	(人) 1	(人) 0	(人) 1	(人) 3	(人) 6	(人) 0	(人) 0	(人) 38	(人) 4	(人) 60	(人) 0	(人) 1
5月	3	4	1	0	1	3	6	0	0	37	4	59	1	0
6月	3	4	1	0	1	3	7	0	0	37	4	60	0	1
7月	3	4	1	0	1	2	7	0	0	37	4	59	1	0
8月	3	4	1	0	1	2	7	0	0	38	4	60	0	0
9月	3	4	1	0	1	2	7	0	0	38	4	60	1	1
10月	3	4	1	0	1	2	7	0	0	38	4	60	0	1
11月	3	4	1	0	1	2	7	0	0	37	4	59	2	1
12月	3	4	1	0	1	1	7	0	0	39	4	60	0	0
平成30年 1月	3	4	1	0	1	1	7	0	0	39	4	60	0	0
2月	3	4	1	0	1	1	7	0	0	39	4	60	1	2
3月	3	5	1	0	1	1	7	0	0	37	4	59	2	1
合 計	36	49	12	0	12	23	82	0	0	454	48	716	8	8

※月初日の入所者数

短期入所生活介護

市町村別 月別	福島市		伊達市					桑折町	国見町	川俣町	その他	合計	1日平均人数	ベッド稼働率
	福島市	旧飯野町	旧伊達町	旧梁川町	旧保原町	旧霊山町	旧月館町					延日数		
平成29年 4月	(日) 0	(日) 33	(日) 0	(日) 0	(日) 0	(日) 0	(日) 6	(日) 0	(日) 0	(日) 437	(日) 4	(日) 480	(人) 16.0	(%) 80.0
5月	0	27	0	0	0	0	12	0	0	478	2	519	16.7	83.7
6月	0	35	0	0	0	0	5	0	0	467	2	509	17.0	84.8
7月	0	28	0	0	0	0	10	0	0	475	0	513	16.5	82.7
8月	0	32	0	0	0	0	16	0	0	491	0	539	17.4	86.9
9月	0	29	0	0	0	0	10	0	0	451	0	490	16.3	81.7
10月	0	41	0	0	0	0	17	0	0	442	0	500	16.1	80.6
11月	0	26	0	0	0	0	11	0	0	441	0	478	15.9	79.7
12月	0	20	0	0	0	0	26	0	0	490	0	536	17.3	86.5
平成30年 1月	0	18	0	0	0	0	16	0	0	491	0	525	16.9	84.7
2月	0	19	0	0	0	0	18	0	0	485	0	522	18.6	93.2
3月	0	17	0	0	0	0	19	0	0	455	0	491	15.8	79.2
合 計	0	325	0	0	0	0	166	0	0	5603	8	6102	16.7	83.6